

芦屋室内合奏団
第37回定期演奏会



神戸朝日ホール
2003年 11月 23日(日)
開場 13:00
開演 13:30

昭和40年に、当時の神戸大学・甲南大学の学生達を中心となって、芦屋市浜町の橋本邸に室内楽を楽しむために集まり産声をあげた当団も、お蔭様で38年目を迎えました。

今回は、新しい試みとして女声合唱団との共演、又これには当団の福永君が若いころ手作りで製作し話題となった、なつかしいパイプオルガンを使用しております。又トロンボーンの独奏も初めての試みです。例年と少し変わった音色をお楽しみいただけたらと存じます。

最後に、皆様方の相変わらぬご声援に感謝いたします。

2003年11月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良
 団員 一同

PROGRAM

O. レスピーギ リュートのための古風な舞曲とアリア 組曲 第三番

I. イタリアーナ II. 宮廷のアリア III. シチリアーナ IV. パッサカリア

G. F. ヘンデル オーボエ(トロンボーン)協奏曲

I. グラーヴェ II. アレグロ III. ラルゴ - サラバンド IV. アレグロ

トロンボーン: 久津那 恵美

♪ 休憩 ♪

G. B. ペルゴレージ 悲しみの聖母(スターバト・マーテル)

I. グラーヴェ II. アンダンテ・アモローソ III. ラルゲット IV. アレグロ V. ラルゴ - アレグロ VI. ア・テンポ・ジュスト
 VII. アンダンティーノ VIII. アレグロ IX. ア・テンポ・ジュスト X. ラルゴ XI. アレグロ XII. ラルゴ・アッサイ - プレスト・アッサイ
 ソプラノ: 岡 良子 アルト: 渡部 千栄子 合唱: 女声合唱団プリモエーラ

指揮: 酒井 睦雄 芦屋室内合奏団

■O. レスピーギ リュートのための古風な舞曲とアリア 組曲 第三番

オットリーノ・レスピーギ(1879~1936)はイタリアの作曲家。ボローニャの音楽学校卒業後ロシアに滞在し、ペテルブルグ歌劇場のヴィオラ奏者となる。そこでリムスキー・コルサコフの作品に出会い、彼のもとで管弦楽法と作曲を学んだ。ベルリンではブルッフに師事。「ローマの松」などに代表される斬新で感覚的・色彩的管弦楽法と共に、近代イタリア作曲家としてもっとも有名になった。1913年サンタ・チェチーリア音楽院教授のち院長となったが、この学校は長い歴史をもっており図書館には多くの古い楽曲を蔵していた。レスピーギは又、この埋もれた宝を発掘し現代音楽として再生させた。

「リュートのための古風な舞曲とアリア」は、16~17世紀に興隆したリュート音楽を取り上げ、それを弦楽合奏作品に作り上げた。組曲が三集あり本日の演奏はその第三番。古い甘美な旋律と、重厚な和声の展開とがアラベスクになっている。

■G. F. ヘンデル オーボエ(トロンボーン)協奏曲

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル(1685~1759)は、同年生まれの J. S. バッハと並んでバロック後期を代表する作曲家。ドイツのハレに生まれたが、生涯の大部分をイギリスで過ごし、死後ウエストミンスター寺院に葬られた。若いころからイタリアオペラを志向したこと、生涯の軌跡など、バッハとは対照的な面が多く、その音楽は明快・鮮明な作風が特徴である。

原曲はオーボエで演奏されるこの短調協奏曲は、1703年ドイツ時代の若い頃の作といわれているが、荘重な響きのグラヴェから始まる充実した作品である。教会ソナタ形式の緩・急・緩・急からなる。各楽章とも独奏に技巧が要求されるのだが、今回はこれをトロンボーンで演奏!しかし、この楽器を学ぶ人たちは必ず勉強する曲であるらしい。

トロンボーンは「大きなトランペット」で、そのスライドする管操作がユニーク。管弦楽やビッグバンドでトロンボーン群団が力強い音とともに管をダイナミックに動かす迫力は見た目にもすごい。N響のヒゲのオーボエ奏者茂木大輔さんの「楽器別人間学」によるとトロンボーン奏者はとにかく陽気で男女とも酒豪揃いとのこと(マウスピース自体が杯で出来ている)。今年亡くなった落語家の春風亭柳昇さんや、クレージーキャッツの谷啓さんもこの楽器を得意としていたが、繊細なイメージのオーボエに代わって、悠々と幅のある音色のトロンボーンが妙技を披露します。

■G. B. ペルゴレージ 悲しみの聖母（スターバト・マーテル）

ジョヴァンニ・バッティスタ・ペルゴレージ(1710～1736)は、イタリア イエージ出身で、A.スカラッティにつぐ初期ナポリ楽派のもっとも重要な作曲家。幼時から病弱であったが生地の貴族に保護されて、作曲とヴァイオリンを学び、ナポリの音楽院に入学した。21歳のときの卒業作品である宗教劇「聖グリエルモの改宗の奇跡」で作曲家としてデビューした。ミサ曲、オペラ・セリア、オペラ・ブッフアなどを作曲、幕間劇「奥様女中」は特に有名。36年、ポツォリのフランシスコ会修道院に病身を移し、死の床にあってこの有名な「スターバト・マーテル」を書き上げ、26歳の若さで亡くなった。死後たいへんに人気が高まった作曲家であり、その美しいメロディーと、特にテンポの速い音楽でも歌謡性を失わない「アレグロ・カンタービレ」の創始者とされマンハイム楽派にうけつがれた。のちのモーツァルトにも少なからぬ影響を与えたといわれている。

スターバト・マーテルはキリスト教聖歌の一つで、十字架の下にたたずむ聖母の悲しみを黙想する歌。ジョスカン・デ・プレ、ハイドン、ロッシーニ、ドボルザーク、ヴェルディらの作曲もある。ペルゴレージの作品は悲劇性とともな叙情性あふれる美しさが際立っており、彼の代表作といわれる。全部で十二曲からなり、女声合唱、ソプラノ、アルトの独唱または二重唱、それに弦楽合奏、オルガンで演奏される。オルガンには、当団福永氏設計・製作のオリジナル楽器を使用します。

R.O.

パイプオルガン自作記 福永精一

昭和47年、就職して2年目の時だった。私は東梅田教会で出会ったオルガンのパイプが木製であることに衝撃を受けた。これは当時唯一の日本人製作者の手によるものであった。部屋の飾りにでもなればと木製パイプを作ってみた。歌口の角度、隙間の間隔など試行錯誤した末、ちょっとしたコツで音が出るようになった。これが面白くて長さの違うパイプを何本か作ってながめているうちに、むらむらと本物の楽器にした気持ちになってきた。

パイプオルガンは、鍵盤を押さえることによりパイプに空気を送り込んで鳴らすという単純な原理なので、やればできると無謀にも考えた。同じ作るのならバツハが弾ける音域と、一度に複数のパイプが鳴らせるようなストップ機構もつけようと計画した。部品には水道の配管材、釣り道具、人工皮革、ネックレス、カーテンレール、戸車・・・など身の回りの物を利用した。また、木でよいのなら紙でもできるはずと考え、紙製パイプを作ったところ見事に鳴った。細かい細工がやりやすく、高音用の短いパイプに最適であった。

素朴な音ながら曲がりなりにも楽器らしくなった頃、当団のメンバーの一人が投書したのがきっかけで、昭和54年にNHKの「みんなの科学」という(音楽番組ではなく)科学番組に出演した。純国産第1号、日本人で2番目のパイプオルガン製作者になったと自負している。しかし、いつしか仕事、家族サービスなどに追われるうち、部屋の片隅で雨降りの時の洗濯物干し代わり以外に利用価値が無く、粗大ゴミ化した。

今回、当団の定期演奏会でオルガンが絶対に必要な曲が候補にあがり、24年ぶりに復活させるまたとないチャンスに、好奇心旺盛な音楽好き家族に乘せられて、この演奏会に持ってくることにした。さて、弦楽器と合唱の中でどんな風に聞こえるか、ちゃんと働いてくれるか、ちょっと心配だが楽しみでもある。

オルガンの仕様 (Positiv Orgel)

【寸法】 2,090mm 巾 × 2,320mm 高さ × 795mm 奥行

【音域】 C ~ e''' (4オクターブ +3度 ; 53鍵)

【ストップ】

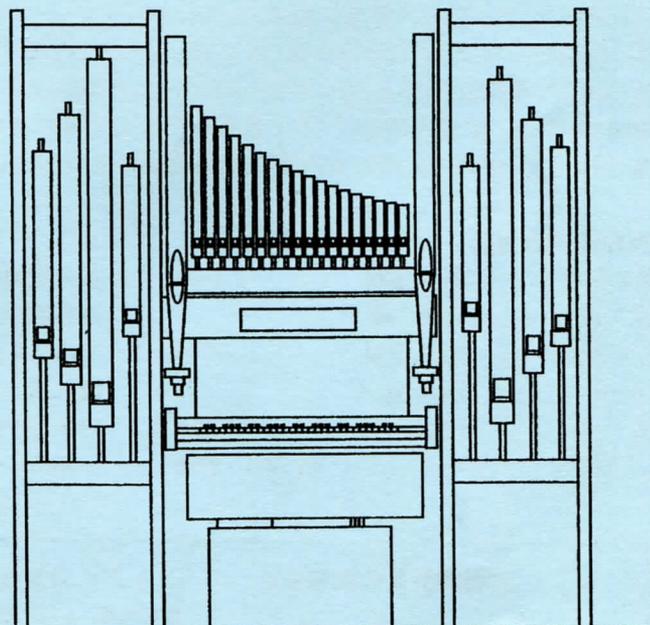
- | | | | |
|-----|-----------|----|--------|
| ① | Prinzipal | 8' | 木管 |
| ② | Gedackt | 4' | 木管(予定) |
| ③ | Oktave | 2' | 紙管(予定) |
| ④~⑧ | | 未定 | |

スライダージェスト 8列 / トロッカー・アクション

【動力】

200W/100V 電動ターボファン

静風圧 60mmAq (max 80mmAq)



出演者ご紹介

■久津那恵美 Emi Kutsuna, トロンボーン

2003年相愛大学音楽学部器楽学科卒業。同大学卒業演奏会、第19回YAMAHA管楽器新人演奏会に出演。2002年新春フランドルの集いコンサートに出演。現在、相愛大学音楽学部音楽専攻科に在学中、また相愛高等学校音楽科非常勤講師。トロンボーンを呉 信一、岡本 哲、小西 智の各氏に師事。

■岡 良子 Ryoko Oka, ソプラノ

相愛大学音楽学部声楽学科卒業。同大学音楽専攻科修了。読売新人演奏会、関西新人演奏会に出演。福光IOX-AROSA 声楽サマー・セミナー'99でウィリアム・マテウツツィに師事し、奨励賞を受賞。そして選出コンサートに出演。なにわ芸術祭新人奨励賞を受賞。相愛大学オペラ公演『フィガロの結婚』に伯爵夫人役にて出演。2002年相生市リサイタル実行委員会主催による「岡 良子ファーストリサイタル」を開催し、絶賛を博した。クラシック音楽家振興会推薦コンサートに出演し、ベストプレーヤーに選ばれる。上辻静子、山田健司の各氏に師事。

■渡部千栄子 Chieko Watabe, アルト

相愛女子大学音楽学部声楽学科卒業、および研究科修了。鈴木田鶴子氏に師事。NHK 巣立つ新人演奏会、相愛女子大学卒業演奏会に出演。兵庫県、関西音楽大学協会等の各新人演奏会に出演。なにわ芸術祭新人奨励賞受賞。NHK オーディション合格、NHK-FM「タベのリサイタル」出演。大阪市立桜宮高等学校、兵庫県立芦屋南高等学校勤務後、現在兵庫県立須磨友が丘高等学校非常勤講師。他、池田市、芦屋市で合唱指導及び多くの演奏会出演や後進の指導等で活躍中。

■女声合唱団プリモラ

1990年9月14日、顧問に酒井睦雄 相愛大学音楽学部教授、指揮者に御崎 恵 相愛大学音楽学部講師を迎え、相愛大学音楽学部卒業生により結成。1996年、発声指導に上辻静子 相愛大学音楽学部講師を迎える。1999年、宝塚歌劇団の指揮者就任後、御崎 恵氏は団付作曲家となる。2002年長尾 都氏が指揮者に就任。団員は大学・高校・音楽教室の講師、その他様々な音楽分野で活動。当団は、音楽を通して社会福祉活動に参加する事を目的とし、学校や施設の訪問演奏会を中心に活動を展開している。合唱、独唱、重唱、器楽演奏のほか、御崎 恵氏による合唱組曲やミュージカル等のオリジナル作品を加え、プリモラ独自のレパートリーを特徴とした演奏活動を行っている。(団長 西尾和美)

ソプラノ:	石田善子	片山明美	桜本賀代子	長尾 都	西尾和美
	福田美知子	本田佳子	森岡京子	山崎和子	
アルト:	後藤淳子	高井佳子	中島理依子	平原江津子	本多典子
	松本真枝	山本夏子			

■酒井睦雄 Mutsuo Sakai, 指揮

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。71年より相愛オーケストラ指揮者、77年ザルツブルクにてO. スイトナー氏に師事。同年、東京にてS. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、74年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、90年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

■芦屋室内合奏団

音楽監督	: 酒井睦雄	ヴァイオリン	: 鳥丸安雄	藤本恭子	福永千江子	戸倉啓子
団長	: 青柳 良		福永精一	青柳 良	黒川美恵子	中田七恵
コンサートマスター	: 鳥丸安雄	ヴィオラ	: 中田久仁子	竹村久美子	音村圭一郎	大内隆一
マネージャー	: 福永精一	チェロ	: 鳥丸直子	宮崎晴夫	堀田一之	
部長	: 中田和夫	コントラバス	: 中田和夫			
		チェンバロ・オルガン	: 小津久子			

次回演奏会のお知らせ

♪♪♪ 芦屋室内合奏団 第4回 春のコンサート ♪♪♪
2004年 4月 29日 西宮市プレラホール

ペルゴレージ 悲しみの聖母(スターバト・マーテル)歌詞

- 1 悲しみの聖母はたたずみ Grave 4/4拍子 (合唱)
Stabat Mater dolorosa 悲しみに沈める母は涙にくれて
Iuxta crucem lacrimosa, み子が掛かりたまえる
Dum pendebat filius. 十字架のもとにたたずみたまいぬ
- 2 悲しみに沈むその魂を Andante amoroso 3/8拍子 (ソプラノ独唱)
Cuius animam gementem, 嘆き悲しみ
Contristatam ac dolentem, 苦しめる子の魂を
Pertransiuit gladius. 剣が貫きたり
- 3 神のひとり子の Larghetto 4/4拍子 (合唱)
O quam tristis et afflicta おお、神のひとり子の
Fuit illa benedicta 祝福されし母は
Mater unigeniti. いかにも悲しく打ち砕かれたまいしか
- 4 尊きみ子の苦しみを Allegro 2/4拍子 (アルト独唱)
Quae moerebat et dolebat, 尊きみ子の苦しみを
Et tremebat, cum videbat 見たまいて嘆き悲しみ
Nati poenas incliti. 打ち震えたまいぬ
- 5 誰が涙を流さぬものか Largo 4/4拍子 (二重唱)
Quis est homo, qui non fleret, これほどまで嘆きたまえる
Christi Matrem si videret キリストのみ母を見て
Dolentem supplicio ? 泣かざる者は誰か

Quis non posset contristari, み子とともに苦しみたまえる
Piam Matrem contemplari 慈悲深きみ母を眺めて
Dolentem cum filio ? 悲しまざるものは誰か
- 人々の罪のために Allegro 6/8拍子 (合唱)
Pro peccatis suae gentis その人々の罪のために
Vidit Jesum in tormentis 拷問と鞭に身を委ねたまいし
Et flagellis subditum. イエスをみ母は見たまいぬ
- 6 聖母は、愛するみ子が A tempo giusto 4/4拍子 (ソプラノ独唱)
Vidit suum dulcem natum また瀕死のうちに見捨てられ
Morientem desolatum, 息絶えたまいし
Dum emisit spiritum. 愛するみ子をみたまいぬ
- 7 愛の泉である聖母よ Andantino 3/8拍子 (アルト独唱)
Eja, Mater, fons amoris, 愛の泉なるみ母よ
Me sentire vim doloris 御身とともに嘆くよう
Fac, ut tecum lugeam. われに悲しみを感じさせたまえ
- 8 わが心をして Allegro 2/2拍子 (合唱)
Fac, ut ardeat cor meum わが心がそのみ心にかなうべく
In amando Christum Deum, 神なるキリストを愛する火で
Ut sibi complaceam. 燃え立たんよう、なしたまえ

- 9 おお、聖母よ (聯合) 千拍子 A tempo giusto 4/4拍子 (二重唱) 1
 Sancta Mater, istud agas, 聖なるみ母よ、十字架に
 Crucifixi fige plagas, 釘付けされたもうみ子の傷を
 Cordi meo Valide. わが心に深く刻みたまえ
- Tui nati vulnerati, わがためにかく傷つけられ
 Tam dignati pro me pati, 苦しみたまひし御身がみ子の
 Poenas mecum divide. 苦痛をわれにも分かちたまえ
- Fac me vere tecum flere, わが命のある限り、
 Crucifixo condolere, 十字架につけられたまひしみ子に対し
 Donec ego vixero. 御身とともにわれにまことの涙を流させ、
 苦惱させたまえ
- Iuxta crucem tecum stare, われは御身とともに十字架のもとに立ち
 Te libenter sociare 御身とともに嘆かんことを
 In planctu desidero. 熱望す
- Virgo virginum praeclara, 乙女の中のすぐれたる乙女よ
 Mihi iam non sis amara, われに辛くあたりたもうことなく
 Fac me tecum plangere. 御身とともにわれを泣かしたまえ
- 10 キリストの死に思いをめぐらし (聯合) 千拍子 Largo 4/4拍子 (アルト独唱) 2
 Fac, ut portem Christi mortem, われにキリストの死を負わしめ
 Passionis fac consortem 御受難をともしし
 Et plagas recolere. その傷を再び得さしめたまえ
- Fac me plagis vulnerari, み子の御傷をもってわれを傷つけ
 Cruce hac inebriari その十字架と愛をもって
 Ob amorem filii. われを酔わしめたまえ
- 11 審判の日にわれらを守りたまえ (聯合) 千拍子 Allegro 4/4拍子 (二重唱) 3
 Inflammatus et accensus, おお乙女よ、審判の日に
 Per te, virgo, sim defensus 火をつけられ、熱せらるるわれを
 In die iudicii. 御身によりて守らしめたまえ
- Fac me cruce custodiri, 十字架によりてわれを守り、
 Morte Christi praemuniri, キリストの死によりて前を固め
 Confoveri gratia. 恩恵によりて悲しみ給え
- 12 肉体は死んで朽ち果てるとも (聯合) 千拍子 Largo assai 4/4拍子 (合唱) 4
 Quando corpus morietur, 肉体が死する時
 Fac, ut animae denetur 魂が天国の栄光に
 Paradisi gloria. 捧げらるるよう、なしたまえ
- アーメン Presto assai 2/2拍子 (合唱) 5
 Amen. アーメン